



令和 6 年度J-GBF活動内容（案）

昨年度総会（R5.9）以降の活動報告

第3回ビジネスフォーラム（令和5年12月5日）

第1部 シンポジウム

「基調講演」（東京都市大学特別教授 涌井氏）

「パネルディスカッション」（モデレーター 日経ESG シニアアドバイザー 東北大学大学院教授 藤田氏）

「経団連生物多様性宣言の改定、企業の生物多様性への取組みに関するアンケート結果、
経団連自然保護基金について 他」（経団連自然保護協会事務局長 長谷川氏）

「J-GBFについて」（環境省自然環境局生物多様性主流化室長 浜島氏）

「生物多様性保全に向けた取組みのご紹介」（積水樹脂代表取締役社長CEO馬場氏）

シンポジウムには200名が参加。

パネルディスカッションでは、「サステイナブルな経済社会の実現に向けた企業の役割」と題して
ネイチャーポジティブへ実現に向けた企業活動について議論を行った。

第2部 生物多様性に関するビジネスマッチング 企業とNGO等の交流会

ネイチャーポジティブビジネスの創出を目的として、経団連自然保護協議会との共催で
ビジネスマッチングイベントを開催。

生物多様性分野のスタートアップ企業等（16社）とNGO（14社）がブース出展し、
活動内容等の説明（ピッチ）と参加者（150名）と新たな連携構築のための
ネットワーキングを行った。



昨年度総会 (R5.9)以降の活動報告

第3回地域連携フォーラム (令和5年10月30日)

第1部 事例発表

各省庁（環境省、国土交通省、農林水産省）及び自治体（千葉県佐倉市、栃木県小山市、宮城県仙台市）より、ネイチャーポジティブ実現に向けた、取組事例を発表。

参加者アンケートの結果、関係省庁発表に関しては9割、自治体からの発表については10割が参考になったと回答。

第2部 パネルディスカッション

ネイチャーポジティブ実現に向けた施策推進のために、地方公共団体の庁内連携や対外的な連携の進め方についてパネルディスカッションを実施。

第1部の事例発表内容について、より議論が深めることができたと好評。

第2回同様、参加者の過半数がビジネス層であり、地域連携や生物多様性保全に関する企業等からの注目の高さが伺えた。

昆明・モントリオール生物多様性枠組

【セクションB. 目的】
この枠組は、社会全体の関与を得て、生物多様性の損失を阻止・反転させ、ビジョン及びミッション、ゴールおよびターゲットの中で設定されている成果を達成することにより、条約の3つの目的と議定書の実施に寄与するべく、政府、準国家及び地方政府による果敢かつ革新的な行動を触媒し、可能にし、刺激することを目的とする。

【セクションC. 枠組の実施についての考慮事項】
全政府的及び全社会的アプローチ
10. この枠組は、すべての主体～政府全体及び社会全体～のためのものである。枠組の成功は政治的な意思と政府の最高レベルの認識を必要とし、あらゆるレベルの政府とすべての主体による行動と協力に依存する。

(暫定訳) <https://www.emr.go.jp/content/000097720.pdf>

様々な環境を統合的評価する指標
City Biodiversity Index (都市と生物多様性指標)

- 自治体を対象とした評価指標としての、都市と生物多様性指標 (シンガポール指標)
- 都市と生物多様性指標の3項目
 - Native biodiversity
 - Ecosystem service
 - Governance and management



昨年度総会（R5.9）以降の活動報告

第6回行動変容ワーキンググループ（令和6年3月25日）

行動変容に関する令和5年度における環境省施策の実施結果報告等

因果分析を用いた行動変容手法の分析

生物多様性の保全に資する商品の消費選択に与える要素を特定し、その因果関係を分析し、今後の介入実験の手法を検討

小売店等と連携した情報発信

小売店に勤務する従業員等を対象にしたワークショップを実施し環境に配慮した取組及びこれからのサービス等を考え、意識の変容を調査。

行動変容に関する過去の知見整理、事例集の作成

Behavior Change For Natureを中心に、行動変容に関する研究・実践事例を整理。他



因果分析を用いた行動変容手法の分析発表の様子

第7回行動変容ワーキンググループ（令和6年7月18日）

行動変容WGの今年度の活動方針について

生物多様性の主流化に関する話題提供

- ・株式会社NTTドコモ 埼玉支店長 武田有紀氏
ドコモの生物多様性保全の取組みーもりまもり・カボニューのご紹介ー
- ・株式会社ビビッドガーデン 執行役員 事業開発 松浦悠介氏
産直通販サイト「食べチョク」での生産者と生活者の行動変容とインサイトについて
「ネイチャーポジティブ宣言」新ロゴマークについて



小売店従業員を対象にしたワークショップの様子

R6 活動年間スケジュール（案）

	総会、幹事会、企画委員会	各フォーラム・WG
6月	幹事会（6/6） ・R6活動案の検討 ・行動計画FUの依頼 等	
7月		行動変容WG①（7/18） （R6活動計画、事例共有等）
8月		
9月	総会（9/9） ・行動計画の進捗状況共有 ・ネイチャーポジティブ宣言の発出状況共有 ・各省からの報告（R7概算要求内容等） 等	
10月	（COP16@コロンビア）	
11月		
12月		ビジネスフォーラム&ビジネスマッチングイベント （12/3）
1月		地域連携フォーラム
2月	企画委員会 R7活動	
3月	支援事業検討委員会 R7活動	行動変容WG②（R6活動成果、事例共有等）

※昨年度3月（今年3月）に企画委員会及び支援事業検討委員会を実施済み（R6活動について検討、議論）。
 ※各フォーラム等の時期は関係の企画委員との企画検討・調整により確定するものとし、現時点は仮設定。

R6活動に関する予算（案）

【令和6年度 J－GBF関連予算】

- ・環境省業務：約1000万円
「令和6年度生物多様性の主流化推進に係るJ-GBFの会議運営支援及び広報等業務」予算
- ・寄付金：約500万円（見込み含む）
 - ※J-GBFサポーター：積水樹脂様、Jオイルミルズ様、鴻池運輸様、ダイフク様、サカタインクス様
 - ※ 昨年度からの繰り越し分を含む

R6全体活動（案） ①行動計画の進捗表について

【「行動計画（進捗表）」の概要】

- これまでのJ-GBF総会において公表した「J-GBFネイチャーポジティブ宣言」に基づく「J-GBFネイチャーポジティブ行動計画」について、その進捗状況を報告するもの。
- 2023年度の実行結果、その自己評価および2024年度の実行予定をまとめた。

行動計画（進捗表）

J-GBFネイチャーポジティブ行動計画(進捗表)

№	(1) 名称	(2) 実施主体	(3) 進捗状況	(4) 内容	(5) 2023年度の実行結果	(6) 2024年度の実行予定	(7) 2023年度の評価	(8) 2024年度目標	(9) 2024年度評価	(10) 2024年度実施の進捗状況
1	気候変動対策推進	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会	気候変動対策推進委員会
2	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
3	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
4	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
5	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
6	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
7	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
8	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
9	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会
10	自然環境の保全	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会	自然環境保全推進委員会

【これまでの経緯】

日程	決議内容
2023年2月	J-GBFネイチャーポジティブ宣言 策定
9月	J-GBFネイチャーポジティブ行動計画 策定
2024年9月9日	J-GBFネイチャーポジティブ行動計画（進捗表）の報告・決議

◆ 参照：資料2-2 J-GBFネイチャーポジティブ行動計画進捗表（案）

R6全体活動（案）②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて

【ネイチャーポジティブ宣言発出状況】

8/15時点

構成団体等	宣言数
自治体	10
企業	39
NGO・NPO等	26
計	75
宣言への賛同を表明した企業・団体	345
延べ団体数	420

ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト

参加団体一覧

ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ

2024年08月15日時点

参加企業・団体数：75団体

宣言への賛同を表明した企業・団体数：345団体

延べ参加企業・団体数：420団体

ア
合同会社アクトリンク 宣言PDF
ACRIUS合同会社 宣言PDF 宣言ページ
厚木市 宣言PDF 宣言ページ
鎌町 宣言PDF
茨城県地球温暖化防止活動推進センター 宣言PDF
株式会社ウェイバック 宣言PDF 宣言ページ

【宣言拡大の工夫】

- ・環境省メルマガ（30by30アライアンス、森里川海等）、J-GBF構成団体へのメール等による周知
- ・J-GBF主催・共催の会議やJ-GBF構成団体を実施するイベント等での呼びかけ
- ・環境省では、「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」における指標として活用
（「ネイチャーポジティブ宣言の宣言・賛同団体数を2030年時点で1,000団体とする」ことを記載）
- ・広報ツール（宣言団体のみが使用できる「ネイチャーポジティブ宣言」ロゴマーク）を作成（詳細は後述）

R6 全体活動 (案)

②「ネイチャーポジティブ」宣言呼びかけについて — 構成団体による宣言拡大に向けた取組事例 —

名古屋市 なごやネイチャーポジティブ パートナー制度における 宣言登録支援



市とともにネイチャーポジティブの実現を目指す事業者・団体等を認定し、支援する制度において、パートナー団体のJ-GBF「ネイチャーポジティブ」宣言への代理登録等を実施。

一般社団法人 日本経済団体連合会 (経団連自然保護協議会) 経団連生物多様性宣言・ 行動指針への賛同企業の募集



- ・経団連生物多様性宣言イニシアチブにおいては、「経団連生物多様性宣言・行動指針」に賛同する企業・団体を募集。
- ・2024年5月31日時点で345社・団体が賛同を表明。

日本自然保護協会 (NACS-J) 市町村・企業向け 支援プログラムの要件への活用



「ネイチャーポジティブ自治体認証制度」において、認証基準の1つに「首長がネイチャーポジティブ宣言を行っている」ことを設定。

R6 全体活動（案） ②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて ーネイチャーポジティブ宣言のメリットー

【ネイチャーポジティブ宣言をするメリットについて】

以下のようなメリットが考えられる/聞こえている。

- ・ 企業や自治体の取組を検討するにあたっての方針整理に活用いただける
- ・ 部署を超えた取組に関する庁内調整がスムーズになる
- ・ ネイチャーポジティブ認定制度（NACS-J）の要件を満たすことができる（前述）
- ・ 「ネイチャーポジティブ宣言」発出団体限定ロゴマーク（※）の使用が可能になる

等

（今後の案）

- ・ COP16における環境省展示ブースにおいて、企業紹介カードが置けるようにする 等

★その他、構成団体の活動においても活用に関するご検討を是非お願いいたします。

※「ネイチャーポジティブ宣言」発出団体限定ロゴマーク（6/6プレスリリース）

- ・ ネイチャーポジティブ宣言を発出、登録していただいた企業、団体等のみが使用できるロゴマークを作成。
- ・ ネイチャーポジティブのイメージキャラクター「だいだらポジー」を活用したデザイン。



R6 全体活動（案）②ネイチャーポジティブ宣言呼びかけについて

【参考：ネイチャーポジティブ宣言の登録手順】

- 宣言を希望する団体等はネイチャーポジティブ宣言ポータルサイトの登録フォームを使って宣言を登録。
- 登録後1～2週間後に宣言団体および宣言内容を掲載。

(登録手順)

- ① J-GBFウェブサイトの「ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけ」ページより②ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイトへ遷移。
- ③ポータルサイト右上の1)「宣言登録」、又は2)「今すぐ宣言する」をクリックして登録。「宣言登録」には申請手順の記載があり、手順に従って宣言。
- ※Excel宣言フォーマット又はgoogleフォームによる登録。独自の宣言フォーマットがある場合は宣言PDF（任意）の登録・掲載も可能。
- ④登録した宣言は、1～2週間後にポータルサイトに掲載される。

J-GBFウェブサイト

(外部) ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト

The diagram illustrates the registration process for Nature Positive declarations. It is divided into four main stages:

- ① J-GBFウェブサイト**: The process begins on the J-GBF website, where users are directed to the "Nature Positive Declaration Call" page.
- ② (外部) ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト**: Users are redirected to the external portal site. The navigation bar includes "宣言登録" (Registration), "参加団体一覧" (List of participating organizations), "よくあるQ&A" (FAQ), and "今すぐ宣言する" (Declare Now). The main content area features a "NEWS & TOPICS" section and a "ネイチャーポジティブ宣言 申請手順" (Registration Process) section.
- ③ ネイチャーポジティブ宣言フォーム**: This is the registration form page. It includes a "Googleにログインすると作業の効率が上がります" (Logging in with Google improves efficiency) prompt, a "メールアドレス" (Email address) field, and a "Googleにログイン" (Login with Google) button. The form also contains a "宣言内容" (Declaration content) field and a "送信" (Submit) button.
- ④ 参加団体一覧**: This page displays a list of participating organizations, including "公益財団法人環境未来センター" (Public Interest Incorporated Foundation for Environmental Future Center), "公益財団法人環境未来センター" (Public Interest Incorporated Foundation for Environmental Future Center), "公益財団法人環境未来センター" (Public Interest Incorporated Foundation for Environmental Future Center), and "公益財団法人環境未来センター" (Public Interest Incorporated Foundation for Environmental Future Center).

Red arrows and boxes highlight the flow from the J-GBF website to the portal site, then to the registration form, and finally to the list of participating organizations. A red box at the bottom of the registration form indicates the "宣言PDFを添付する" (Attach declaration PDF) step, with a note: "※宣言PDFを添付する場合は、宣言内容のPDFファイルを添付してください。" (If attaching a declaration PDF, please attach the PDF file of the declaration content.)

R6全体活動（案）③生物多様性枠組 スマート版の製作

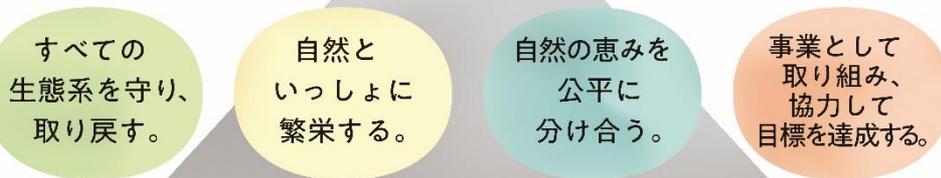
○ 昆明モントリオール生物多様性枠組 (GBF)目標達成には、あらゆる社会による行動(Whole-Society Approach)が必要。

○ あらゆる社会による行動を広げるためには、GBFが目指す23の目標が、企業や人々にどのような行動を求めているのか、分かりやすく噛み砕いたものが必要。

➡ J-GBFとして、**「生物多様性枠組 スマート版」**を製作。

生物多様性プラン

2050年 自然との共生に向けた4つのゴール



2030年 ネイチャーポジティブに向けた23のアクション

生物多様性への脅威を削減するために。

生物多様性の恩恵を享受しつづけるために。

生物多様性の保全を当たり前にするために。

1 それぞれの地域に あった計画と管理を。	2 生態系を 回復しよう。	3 陸と海を 守ろう。	4 種を絶滅から 守ろう。	9 野生種の利用を サステナブルに。	10 農林水産業を サステナブルに。	11 自然の恵みを 取り戻そう。	14 あらゆる意思決定 で意識しよう。	15 ビジネスの奥ん中 で取り組もう。	16 消費に サステナブルな 選択肢を。	17 バイオテクノロジー をもっと安全に。	18 有害な インセンティブを 見直そう。
5 野生種の乱獲を やめよう。	6 外来種の 定着を減らそう。	7 汚染を 減らそう。	8 生物多様性と 気候変動を統合的 に解決しよう。	12 水と糧あふれる 街作りを。	13 遺伝資源の利益を 適切に分けよう。	19 実行に向けて 資金を確保しよう。	20 技術をシェアして 共創しよう。	21 データや情報を もっと使いやすく。	22 みんなで考え みんなで決めよう。	23 ジェンダー平等で 推進しよう。	

R6全体活動（案）③生物多様性枠組 スマート版の製作

○ 生物多様性枠組のターゲット達成のための、あらゆる社会による行動を促進すべく、コミュニケーション・教育・普及啓発などで広くご活用いただきたい。

生物多様性プラン

2030年 ネイチャーポジティブに向けた23のアクション

1 それぞれの地域に あった計画と管理を。	2 生態系を 回復しよう。	3 陸と海を 守ろう。	4 種を絶滅から 守ろう。	5 野生種の乱獲を やめよう。	6 外来種の 定着を減らそう。
7 汚染を 減らそう。	8 生物多様性と 気候変動を統合的 に解決しよう。	9 野生種の利用を サステナブルに。	10 農林水産業を サステナブルに。	11 自然の恵みを 取り戻そう。	12 水と緑あふれる 街作りを。
13 遺伝資源の利益を 適切に分けよう。	14 あらゆる意思決定 で意識しよう。	15 ビジネスの真ん中 で取り組もう。	16 消費に サステナブルな 選択肢を。	17 バイオテクノロジー をもっと安全に。	18 有害な インセンティブを 見直そう。
19 実行に向けて 資金を確保しよう。	20 技術をシェアして、 共創しよう。	21 データや情報を もっと使いやすく。	22 みんなで考え みんなで決めよう。	23 ジェンダー平等で 推進しよう。	 THE BIODIVERSITY PLAN For Life on Earth

2030 生物多様性枠組実現日本会議 (J-GBF)

R6全体活動④ 寄付金の使途に関する報告

令和6年度 寄附金使途(報告)

(収入)

昨年度 (R5) 繰り越し	1,272,100円
本年度 (R6) 受入 (見込み含む)	3,700,000円
計	4,972,100円

(支出)

○ネイチャーポジティブ宣言支援事業	約600,000円
・ネイチャーポジティブ宣言の収集およびポータルサイトの企画運営	
・MY行動宣言 (オンライン) サイトの運営	
○ユース支援 (国外派遣等)	約2,300,000円
・COP16@コロンビア、および自治体国際会議等へのユース派遣	
・横浜国際ユースサミット	
○COP16サイドイベント・ブース展示等	約400,000円
・COP16サイドイベント及び環境省ブース展示におけるJ-GBFに関する広報支援等	
○検討会運営費、予備費等	約900,000円
計	約4,200,000円

(翌年繰越)

約700,000円

※運用の中で各項目について増減等の変更の可能性あり

R6ビジネスフォーラム（案）

ビジネスフォーラム 生物多様性に関するビジネス分野（企業等）への情報提供や関心向上に向けた**経済3団体**を中心とするフォーラム

● 第4回ビジネスフォーラムの概要（シンポジウム＋マッチング）

○趣旨：ネイチャーポジティブ実現のための社会経済の在り方をビジネスの立場から議論し、自然資本を活用したビジネス創出や、レジリエンス強化のための支援を行う。

○日時：12月3日（火）13時～18時（予定）

○場所：経団連会館

○構成（予定）：第一部 シンポジウム、第二部 ビジネスマッチング

※第二部はネイチャーポジティブに資する技術やソリューションを有するスタートアップ企業

・中小企業とN G Oがブースを設置し、大企業に連携を呼びかけることを想定

R6 地域連携フォーラム（案）

地域連携 フォーラム

生物多様性自治体ネットワーク、イクレイ日本と連携し、地域における生物多様性への知見共有や具体的取組を促すフォーラム

● 第4回地域連携フォーラムの概要（案）

- テーマ：食と生物多様性
- 日時：未定（1月頃の実施を想定）
- 場所：オンライン開催を前提としつつ、自治体NWの勉強会と連携して開催する等、対面開催の可能性についても検討。
- 構成：事例共有（40分） パネルディスカッション（40分） 質疑応答（10分）

R6 行動変容ワーキンググループ（案）

行動変容WG

マルチステークホルダーによる、ナッジやポイント制度等を活用した、市民や企業等の行動変容を促す取組を議論・検討する会議体

令和6年度 取組内容

◆企業目線での消費者・生活者の行動変容ヒント集を更新

・行動変容WG参加者、J-GBF構成団体、企業等に広く活用してもらえよう、ウェブサイトにおいて公開・発信中。

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/committee/bctips/>



◆事業者の行動変容を促すための消費者の行動変容調査

・認証商品購入等、消費者の行動変容がネイチャーポジティブに至る機序を示したロジックモデル作成業務（R5実施）について、実際の店舗にて介入策を実施し、実証実験を行う。

- ASC認証牡蠣
- 減農薬米
- RSPO認証日用品（予定）

◆生物多様性に係る行動変容に関する取組事例の共有

・生物多様性に資する取組を行っている（行動を促している）活動の事例を共有。

⇒WGでの事例発表の継続。



連携活動の報告及び予定

令和6年度後援等実績

- ・能登復興支援シンポジウム～能登の創造的復興に向けて～
共催：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）
公益財団法人国連大学協力会 環境省 石川県

- ・図書館を使った調べる学習コンクール
主催：公益財団法人図書館振興財団
※2030生物多様性枠組実現日本会議賞を下付

- ・都市の生物多様性フォーラム
～見える化で広がるネイチャー・ポジティブの実践と幸せな暮らし～
主催：積水ハウス株式会社

- ・ホストタウンフェスティバル2024
主催：一般財団法人ホストタウンアピール実行委員会

令和6年度共催予定

- ・GTFグリーンチャレンジデー 2024年11月2・3日
主催：GTF グレーター トウキョウ フェスティバル 実行委員会
共催：環境省、新宿区、TOKYO FM、TBSホールディングス、TOKYO MX

- ・AQUARIUM FESTIVAL 2024
主催：株式会社イノカ



国際生物多様性の日 2023 シンポジウム（前列中央は山田環境副大臣）



GTFグリーンチャレンジデーのステージ前の様子